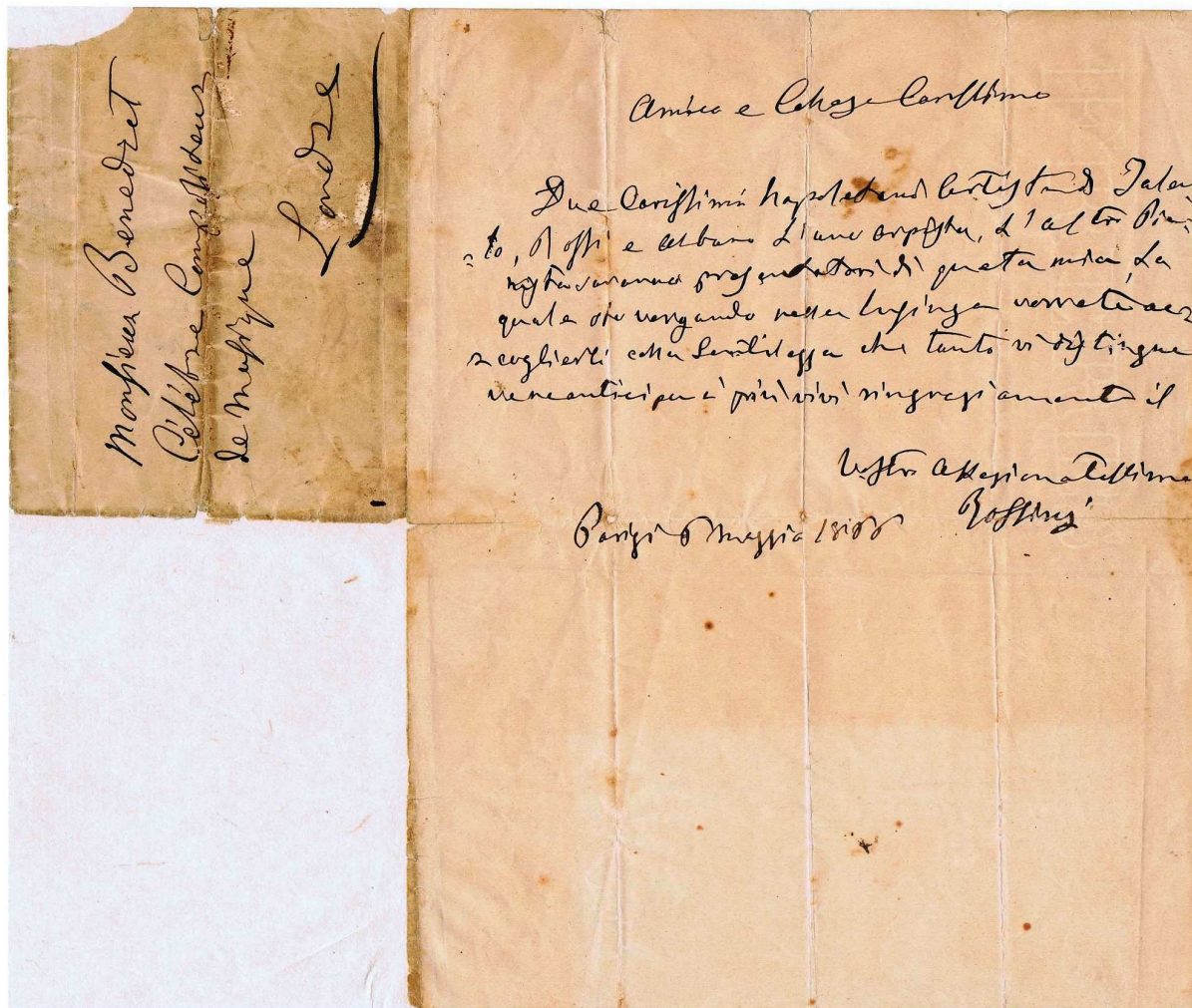


ロッシーニの自筆書簡 1866年5月6日付

(水谷彰良コレクションより)

ロッシーニの自筆書簡 [ユリウス・] ベネディクト宛、1866年5月6日付



A Monsieur [Julius] Benedict Lettera autografa firmata di Gioachino Rossini Parigi 6 Maggio 1866.

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

解説

ロンドン在住のユリウス・ベネディクト (Julius Benedict, 1804-85) は 1804 年にシュトゥットガルトで生まれ、ヴァイマルでフンメルとドレスデンでヴェーバーに師事したドイツ人作曲家。1827 年にナポリで最初のオペラを初演して成功せず、1834~35 年のパリを経てロンドンに定住し、指揮者、作曲家として活躍した。1834~35 年にパリでロッシーニと面識を得たかどうかは不明だが、60 年代に交友があり、ロッシーニは 1865 年 5 月の手紙で出版社主アントーニオ・パチーニの娘ポール・ギラルドを優秀なピアニストとして推薦、ベネディクトに次にパリに来る予定の有無を尋ねている。

この書簡は 1 年後の 1866 年 5 月 6 日にベネディクトに宛てたもので、用紙サイズは 21.8×26 cm (文面の 2 倍の 35 cm だった可能性もある)、宛先はフランス語で「Monsieur Benedict / Célèbre Compositeur / de Musique / Londres」とあるが、ベネディクトがイタリア語を解したことから本文はイタリア語で書かれ、二人のナポリ人を才能ある音楽家として推薦している (名前は Rossi と Albano [または Albani])。ロッシーニはハーピストとピアニストと付記)。

(2014 年 11 月作成 / 2015 年 3 月改訂。水谷彰良)